

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

法学部、経営学部、スポーツ科学部

- ③ 修了要件

「ICTリテラシーA」2単位、「ICTリテラシーB」2単位、「データサイエンス」2単位の必修3科目、合計6単位を取得すること

必要最低単位数 6 単位 履修必須の有無 令和7年度までに履修必須とする計画

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス□	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	2	○	○	○					
ICTリテラシーA	2	○		○					

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ICTリテラシーB	2	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
	1-6	・AI最新技術の活用例「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・オープンデータ、調査データ、実験データ「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析「データサイエンス」(第8回、第9回) ・特化型AIと汎用AI「データサイエンス」(第10回)
	1-5	・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELS、個人情報保護、忘れられる権利、データ倫理、データバイアス 「データサイエンス」(第2回) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)
	3-2	・匿名加工情報 「データサイエンス」(第2回) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性 「データサイエンス」(第3回) ・パスワード、悪意ある情報搾取 「ICTリテラシーA」(第1回、第5回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「ICTリテラシーA」(第5回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき、相関と因果(相関係数) 「ICTリテラシーB」(第14回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図) 「ICTリテラシーB」(第14回)
	2-3	・データの集計(和、平均)、データの並び替え 「ICTリテラシーB」(第15回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICTスキルと数理・データサイエンス・AIの基礎知識が同時に身につきます。グループ学習を通じて、協力して発表資料を作成することで数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさを体験し、将来に渡って学ぶ力が身につきます。

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

健康栄養学部

③ 修了要件

「情報処理演習Ⅰ」1単位、「情報処理演習Ⅱ」1単位、「データサイエンス」2単位の必修3科目、合計4単位を取得すること

必要最低単位数 4 単位 履修必須の有無 令和7年度までに履修必須とする計画

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンスⅡ	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	2	○	○	○					
情報処理演習Ⅰ	1	○		○					

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理演習Ⅱ	1	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
	1-6	・AI最新技術の活用例「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・オープンデータ、調査データ、実験データ「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析:クロス集計、回帰分析、ベイズ推論、アソシエーション分析、クラスタリング、決定木「データサイエンス」(第8回、第9回) ・特化型AIと汎用AI「データサイエンス」(第10回)
	1-5	・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELS、個人情報保護、忘れられる権利、データ倫理、データバイアス 「データサイエンス」(第2回) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)
	3-2	・匿名加工情報 「データサイエンス」(第2回) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性 「データサイエンス」(第3回) ・暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取 「情報処理演習Ⅰ」(第7回、第8回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・母集団と標本抽出(アンケート調査、全数調査) 「情報処理演習Ⅱ」(第9回) ・データの種類(量的変数、質的変数) 「情報処理演習Ⅱ」(第12回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、相関と因果(相関係数) 「情報処理演習Ⅱ」(第13回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図) 「情報処理演習Ⅱ」(第11回)
	2-3	・データの集計(和、平均)、データの並び替え 「情報処理演習Ⅱ」(第13回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICTスキルと数理・データサイエンス・AIの基礎知識が同時に身につきます。グループ学習を通じて、協力して発表資料を作成することで数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさを体験し、将来に渡って学ぶ力が身につきます。

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

国際リベラルアーツ学部

③ 修了要件

「Introduction to Data Science」1単位を取得すること
~~「Introduction to Computer Science」3単位、「Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics」1単位、「Statistics」3単位、「Machine Learning」3単位の10単位を取得すること~~

必要最低単位数 140 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
Introduction to Data Science	1	○	○	○					
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
Introduction to Data Science	1	○	○	○					
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
Introduction to Data Science	1	○	○	○					
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
Introduction to Data Science	1	○	○	○					
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
Introduction to Data Science	1	○	○	○	○						
Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics	4	○	○	○	○						
Statistics	3	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット 「Introduction to Data Science」(第1回)(第13回) —Changes in society, Internet of Things 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) ・複数技術を組み合わせたAIサービス —Changes in society 「Machine Learning」(第1回)
	1-6 ・AI最新技術の活用例 「Introduction to Data Science」(第1回) —Latest trends in data and AI utilization 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) —Latest trends in data and AI utilization 「Machine Learning」(第1回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・調査データ、実験データ、データのオープン化 「Introduction to Data Science」(第2回) ・構造化データ 「Introduction to Data Science」(第5回) —Introduction to Databases 「Introduction to Computer Science」(第29回) —Data used in society/ AI utilization 「Machine Learning」(第1回)
	1-3 ・データ・AI活用領域の広がり 「Introduction to Data Science」(第1回) —Areas of utilization of data and AI 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) —Areas of utilization of data and AI 「Machine Learning」(第1回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ解析 —「Machine Learning」(第12回)～(第28回) —「Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics」(第5回)(第6回) —「Statistics」(第12回) ・特化型AIと汎用AI 「Introduction to Data Science」(第12回) —Technologies for data and AI utilization 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回)
	1-5 ・探索的データ解析 「Introduction to Data Science」(第8回)(第10回)(第11回) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介 —Sites of data and AI utilization 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) —Sites of data and AI utilization 「Machine Learning」(第1回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護、データ倫理 「Introduction to Data Science」(第7回) ・データ倫理、データバイアス 「Points to Note in Utilizing Data and AI」「Machine Learning」(第1回) (第2回)
	3-2	・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性 「Introduction to Data Science」(第7回) 「Precautions for protecting data」「Introduction to Computer Science」(第25回)～(第28回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類、データのばらつき 「Introduction to Data Science」(第3回) (第4回) ・母集団と標本抽出 「Introduction to Data Science」(第4回) ・相関と因果 「Introduction to Data Science」(第6回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき、相関と因果(相関係数) 「Read the data」「Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics」(第7回) (第8回) 「Read the data」「Statistics」(第2回)～(第4回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図) 「Introduction to Data Science」(第9回) 「Explain the data」「Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics」(第9回)～(第20回) 「Explain the data」「Statistics」(第20回)～(第30回)
	2-3	・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング、表形式のデータ(csv) 「Introduction to Data Science」(第14回) 「Machine Learning」(第12回)～(第28回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識が身につきます。多種性豊かな学生がともに学ぶことで、数理・データサイエンス・AIについても多種多様な考え方を見につけることができます。

02_(山梨学院大学)_変更後のシラバス等

- ・ データサイエンス
- ・ ICTリテラシーA
- ・ ICTリテラシーB
- ・ 情報処理演習 I
- ・ 情報処理演習 II
- ・ Introduction to Data Science

学期	2024年度前期	ナンバリングコード	ICT103	
科目名称	データサイエンス		開講言語	日本語
担当教員	内藤 統也			
開講学科	管理栄養学科			
科目群	ICTスキル	履修相当年次	1年	
曜日時限	木曜1限	単位数	2単位	
到達目標	この授業では以下の3つを到達目標とします。(DP1-②考え抜く力と関連) ・データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを説明できる。 ・今のAIで出来ることと、出来ないことの判別ができる。 ・社会におけるデータやAIの利活用事例を調査して、発表できる。			
関連DP	DP1-②(考え抜く力)			
授業概要	データサイエンスとは、意思決定をサポートするために大量のデータから法則・関連性を導き出すための手法を指すことが一般的ですが、企業活動をはじめ、現代のビジネスにおいて、このデータサイエンスの活用が必要不可欠なものになっています。 一方、日本はAI人材の育成で世界から遅れを取っているといわれています。AI人材とは、データサイエンスの基礎的素養に身に付け、学修した知識・技能をもとに、AIを扱う際には人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAIの恩恵を享受できる人材のことです。 この授業では、データサイエンスの基礎的素養に身に付け、AI人材を育成することを目的とします。 授業では、以下の内容を扱います。 ・社会で起きている変化 ・社会で活用されているデータ ・データ・AIの活用領域 ・データ・AI利活用のための技術 ・データ・AI利活用の現場 ・データ・AI利活用の最新動向 前半の授業は主に講義形式で行い、後半はグループ学習形式で行います。			
利用するアクティブ・ラーニング手法	グループワーク／プレゼンテーション			

授業計画	
回数	内容
第1回	※履修指定科目のため第1回から対面で授業を行います。授業開始時刻までに指定された教室に集合してください。 現代社会におけるデータサイエンス ・データサイエンスの役割 キーワード：ビッグデータ、IoT、AI、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 授業内容に関する小テスト（授業後）
第2回	現代社会におけるデータサイエンス ・データサイエンスと情報倫理 キーワード：倫理的・法的・社会的課題、個人情報保護（ELSI）、データ倫理、匿名加工情報 授業内容に関する小テスト（授業後）
第3回	現代社会におけるデータサイエンス ・データ分析のためのデータの取得と管理 キーワード：調査データ、実験データ、データ作成、データのオープン化、データバイアス 授業内容に関する小テスト（授業後） 1章の内容に関する課題レポート（授業後）

第4回	データ分析の基礎 ・ヒストグラム・箱ひげ図・平均値と分散 キーワード：データ可視化 授業内容に関する小テスト（授業後）
第5回	データ分析の基礎 ・散布図と相関係数 キーワード：データ可視化 授業内容に関する小テスト（授業後）
第6回	データ分析の基礎 ・回帰直線 キーワード：データ解析 授業内容に関する小テスト（授業後）
第7回	データ分析の基礎 ・データ分析で注意する点 キーワード：データ解析 授業内容に関する小テスト（授業後） 2章の内容に関する課題レポート（授業後）
第8回	データサイエンスの手法 ・クロス集計 ・回帰分析 ・ベイズ推論 キーワード：データ解析、データサイエンスのサイクル 授業内容に関する小テスト（授業後）
第9回	データサイエンスの手法 ・アソシエーション分析 ・クラスタリング ・決定木 キーワード：データ・AI活用領域の広がり、データサイエンスのサイクル 授業内容に関する小テスト（授業後）
第10回	データサイエンスの手法 ・ニューラルネットワーク ・機械学習とAI ・生成AI キーワード：特化型AIと汎用AI、AI最新技術の活用例 授業内容に関する小テスト（授業後） 3章の内容に関する課題レポート（授業後）
第11回	グループ学習 ・グループづくり ・グループでのテーマ設定 キーワード：データ・AI活用事例紹介、AI最新技術の活用例

	グループワークに関するワークシート提出（授業内）				
第12回	グループ学習 ・ テーマに従った活用事例の調査とまとめ キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例 グループワークに関するワークシート提出（授業内）				
第13回	グループ学習 ・ 調査内容に関するプレゼンテーション資料の作成 キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例 グループワークに関するワークシート提出（授業内） プレゼンテーション資料の提出（授業後）				
第14回	グループ学習 ・ プレゼンテーション動画の作成と提出 キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例 グループワークに関するワークシート提出（授業内） プレゼンテーション動画の提出（授業後）				
第15回	成果発表とまとめ ・ 他のグループのプレゼンテーションの閲覧とコメント ・ まとめ キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例 授業内容に関する小テストまたはワークシート提出（授業後）				
授業運営におけるICT活用	ワークシートの記入 プレゼンテーション資料の作成				
事前・事後学習の内容	第1回から第10回まで、授業内容に関する小テストを出題します。予習と復習のために3時間が必要です。（合計30時間） 第11回から第15回まで、グループワークを行います。授業への準備や振り返りのために2時間が必要です。（合計10時間） 課題レポートを3回実施します。準備のために5時間が必要です。（合計15時間） プレゼンテーションの作成や掲載のために5時間が必要です。（合計5時間）	予習時間	2時間	復習時間	2時間
フィードバックの方法	・ 講評はLMSで行います。 ・ 詳細の説明を希望する学生には授業Q&Aやメールにて対応します。				
評価方法		評価割合		評価基準など	
授業内小テスト		30%		単位認定には60%以上の正答率が必要です	
レポート課題		30%			
授業内課題		15%			
プレゼンテーション		25%		単位認定には発表資料の提出が必要です	
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
はじめてのデータサイエンス	滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学 ICT リテラシー教育チーム 共編	学術図書出版社	978-4-7806-1102-1	価格：1900円＋税（購入必須）	
参考資料・URL					
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)					

前年度の授業を踏まえた今年度の授業	・データサイエンスやAIについてわかりやすい授業を行います。
特記事項	全体を4つの単元に分けて授業を展開します。第4単元では、アクティブラーニングを取り入れたグループディスカッションやプレゼンテーションを行います。メンバーと協力しながら進めてください。 【評価方法について】 ・授業内小テストは、第1回から第10回までの授業内容にもとづいて出題します。 ・レポート課題は、テキストの各章ごとに1回ずつ計3回出題します。 ・授業内課題は、第4単元のグループワークで作成するワークシートを提出してもらいます。 ・プレゼンテーションは発表資料を提出してもらいます。 なお、以下に該当する場合には、合格水準に達していても単位認定しないことがあります。 ・授業を6回以上欠席した場合 ・第3回の授業時点で指定されたテキストを用意しなかった場合 ・未提出のレポート課題がある場合 ・プレゼンテーションの発表資料を提出しなかった場合 ・小テストやレポート等の提出において不正行為を行なった場合や、不正行為に関わった場合 ・授業に関して教員の指示等に繰り返し従わなかった場合

学期	2024年度前期	ナンバリングコード	ICT101
科目名称	ICTリテラシーA	開講言語	日本語
担当教員	伊藤 栄一郎		
開講学科	経営学科		
科目群	ICTスキル	履修相当年次	1年
曜日時限	水曜2限	単位数	2単位
到達目標	・初年次の授業等に必要とされるレベルでPCを操作できる。 ・一般的な資格試験に合格できるレベルで文書作成アプリを操作できる。 ・基本的な事務作業に必要とされるレベルでキーボードのタイピングができる。		
関連DP	DP1-②(考え抜く力)		
授業概要	※かならず【特記事項】の内容を確認した上で授業を受けてください この授業では、大学で必要とされる基本的なPC操作に関するスキルを習得するとともに、ICTに関する基礎的知識について学びます。 複数の教員により開講されますが、授業内容や評価方法はクラス間で統一されています。 履修指定科目のため、必ずUNIPAで登録されているクラスを受講してください。		
利用するアクティブ・ラーニング手法	実習・フィールドワーク		

授業計画	
回数	内容
第1回	※入学時に配布された「学生用コンピューターメールシステム等利用マニュアル」を持参してください <オリエンテーション> ・ICTスキル科目群について ・この授業の概要と評価について <すぐに必要なICTスキル> ・実習室PCの利用方法と注意事項 ・学内無線LANの利用方法について ・UNIPAの使い方（出席、授業Q&A、掲示、テスト、課題提出について） * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第2回	※入学時に配布された「学生用コンピューターメールシステム等利用マニュアル」を持参してください <クラウドアプリの活用> ・Microsoft 365について ・Outlookの使い方 ・Formsの使い方 ・Teamsの使い方 * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第3回	<キーボードタイピング> ・タッチタイピングについて ・タイピング練習 ・キーボードタイピングの小テスト（1回目） <オフィスアプリの活用> ・オフィスアプリのダウンロードとインストール方法 ・Word, Excel, PowerPointの用途と活用法 * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第4回	<PCでのファイル操作> ・ファイルとフォルダの役割 ・実習室PCのフォルダ構成 ・ファイルのコピー、移動、削除、名称変更、圧縮、展開などの方法 * 授業後に授業内容に関する小テストを行います

第5回	<電子メールでのコミュニケーション> ・電子メールの用途と活用 ・大学での電子メール利用について ・ビジネスメールの送り方 <ネットリテラシー（データを守る上での留意事項を含む）> ・電子メール利用時のマナーと注意点 ・ウェブサイト利用時の注意点 ・実習室利用時の注意点 * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第6回	<IT関係の資格について> ・MOS試験について ・ITパスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験について <基本的なPCスキルまとめ> ・今まで学んだPC操作に関する演習を行います * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第7回	*この授業回以降、必ず教科書を持参してください。教科書を忘れると成績に影響することがあります。 <文書の管理> ・文書内を移動する ・文書の書式を設定する <キーボードタイピングの小テスト（2回目）> * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第8回	<文書の管理> ・文書を保存する、共有する ・文書を検査する * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第9回	<文字、段落、セクションの挿入と書式設定> ・文字列や段落を挿入する ・文字列や段落の書式を設定する ・文書にセクションを作成する、設定する * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第10回	<表やリストの管理> ・表を作成する ・表を変更する ・リストを作成する、変更する * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第11回	<参考資料の作成と管理> ・参照のための要素を作成する、管理する ・参照のための一覧を作成する、管理する <キーボードタイピングの小テスト（3回目）> * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第12回	<グラフィック要素の挿入と書式設定> ・図やテキストボックスを挿入する ・図やテキストボックスを書式設定する ・グラフィック要素にテキストを追加する ・グラフィック要素を変更する * 授業後に授業内容に関する小テストを行います
第13回	<文書の共同作業の管理> ・コメントを追加する、管理する ・変更履歴を管理する

	* 授業後に授業内容に関する小テストを行います				
第14回	※到達度確認テストを受けない場合、単位認定されないことがあります。 ＜到達度確認テスト＞ ・キーボードタイピング到達度確認テスト ＜授業のまとめ＞ ・評価について ・Word到達度確認テストの練習				
第15回	※到達度確認テストを受けない場合、単位認定されないことがあります。 ＜到達度確認テスト＞ ・Word到達度確認テスト ＜授業のまとめ＞ ・授業の振り返り				
授業運営におけるICT活用	LMS等を利用して資料の配布、小テストや課題の回収を行います。 PC操作の学習のため実習室のPCを活用します。				
事前・事後学習の内容	授業の予習と復習には十分な時間を確保して下さい。 特に、テキストを見ることなくコンピューターや文書作成アプリケーションソフトを操作できるように十分復習してください。 授業の復習として小テストを行います。	予習時間	1時間	復習時間	3時間
フィードバックの方法	講評を希望する学生にはメール、LMSのいずれかで対応します。				
評価方法		評価割合		評価基準など	
各回の小テスト		50%		詳細は〔特記事項〕参照	
技能に関する課題		50%		詳細は〔特記事項〕参照	
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト& 問題集	富士通エフ・オー・エム	FOM出版	978-4-86510-430-1	定価：本体2,100円＋税（購入必須）	
参考資料・URL	MOSとは https://mos.odyssey-com.co.jp/about/ MOS Word 365&2019（一般レベル）試験概要 https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/word365and2019.html				
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	・この科目は実務経験を有する教員の担当する科目です。 ・私の主な勤務実績は、1987年から1997年まで複数のソフトウェア開発会社にてプログラマ・システムエンジニアを行っていました。 ・大学教員となつてからは、複数企業のITコンサルティングを経験しました。 ・実務経験で得たノウハウを授業運営に活かしていきます。				
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	・PCを使うことに慣れていない学生にも丁寧に指導します。				
特記事項	＜評価基準の詳細＞ 成績評価は、下記項目で合計100点満点として行います。 ・各回の小テスト（50点） ・技能に関する課題（50点） ※技能に関する課題については、授業内課題・確認問題・タイピングテスト・Word到達度確認テストなどで総合的に評価します。 原則として合計点が60点以上を合格としますが、点数に関わらず下記に該当する場合には、単位を認定しないことがあります。 ・指定されたテキストを用意していない場合 ・授業内課題の提出状況が悪い場合 ・第14回・第15回の到達度確認テストを受けていない場合 ・添付資料のルーブリックに示した合格基準に達していない場合 ＜欠席した場合＞ 正当な理由があつて欠席した場合は必ず公欠届を提出しましょう。 本授業は、講義と演習を組み合わせた授業となります。欠席した場合には、授業で行ったことをシラバスで確認し、次の授				

業までに教科書を見て必ず自学習しておいて下さい。

<自宅での学習環境について>

大学のPC実習室を利用できる時間には限りがありますので、自分のPCで学習できるように Microsoft Word など、Microsoft 365アプリをインストールしておいてください。

学期	2024年度後期	ナンバリングコード	ICT102	
科目名称	ICTリテラシーB		開講言語	日本語
担当教員	清水 智			
開講学科	経営学科			
科目群	ICTスキル	履修相当年次	1年	
曜日時限	水曜2限	単位数	2単位	
到達目標	①表計算ソフトの基本的な操作を行うことができる。 ②社会におけるデータ活用の重要性について説明できる。 ③表計算ソフトを用いて身の回りのデータを分析できる。			
関連DP	DP1-②(考え抜く力)			
授業概要	情報化社会といわれる今日では、コンピュータは社会のあらゆる分野で使用されるようになっており、ビジネスの分野でも多くのコンピュータが導入されています。 社会に出た場合には職務上でコンピュータを使用することが要求されます。また、いろいろなデータがコンピュータで処理されています。データ処理のアプリケーションソフトの1つに表計算ソフトがあります。 この授業では、表計算ソフトの1つである「Excel」を使用して、ソフトの操作方法や表の作成やグラフの作成を学びます。最初は基本的な操作方法から始め、応用的な段階まで進んでいきます。 また、現代社会では、ビジネス・仕事を離れた様々な場面においても、表計算ソフトを使用することで効率化が図れます。例を挙げると、町内会（マンションの管理組合）の予算管理、PTA・子ども会の活動、スポーツやダンス・音楽イベントの主催・実施、同窓会の開催における会員管理や会計処理などがあります。 この授業は、複数の教員が開講します。クラスは事前に登録されます。登録されたクラスを受講するようにしてください。なお、授業内容や評価方法はクラス間で統一されています。			
利用するアクティブ・ラーニング手法	実習・フィールドワーク			

授業計画	
回数	内容
第1回	<ガイダンス> ・講義内容、授業の運営方法、予習・復習の方法の説明
第2回	<Excelの基本操作とワークシートやブックの管理> ・Excelの起動・終了、Excelの基本要素 ・Excelの画面構成 ・ブック内を移動する
第3回	<ワークシートやブックの管理> ・ワークシートやブックの書式を設定する ・オプションと表示をカスタマイズする
第4回	<ワークシートやブックの管理> ・共同作業のためにコンテンツを設定する ・ブックにデータをインポートする
第5回	<セルやセル範囲のデータの管理> ・シートのデータを操作する ・セルやセル範囲の書式を設定する（1）
第6回	<セルやセル範囲のデータの管理> ・セルやセル範囲の書式を設定する（2） ・名前付き範囲を定義する、参照する ・データを視覚的にまとめる
第7回	<テーブルとテーブルのデータ管理> ・テーブルを作成する、書式設定する

	・ テーブルを変更する				
第8回	<テーブルとテーブルのデータ管理> ・ テーブルのデータをフィルターする、並べ換える				
第9回	<数式や関数を使用した演算の実行> ・ 参照を追加する ・ データを計算する、加工する				
第10回	<数式や関数を使用した演算の実行> ・ 文字列を変更する、書式設定する				
第11回	<グラフの管理> ・ グラフを作成する ・ グラフを変更する ・ グラフを書式設定する				
第12回	<操作技能のまとめ> ・ 操作技能到達度テスト				
第13回	<基本統計量の理解> ・ 基本統計量について知る ・ 身の回りのデータや活用例について考える 【データを読む】 データの種類（量的変数、質的変数）/データの分布(ヒストグラム)と代表値（平均値、中央値、最頻値） 代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い）/データのばらつき（分散、標準偏差） 散布図と相関・相関係数 【データを説明する】 データ表現（棒グラフ、折線グラフ、円グラフ、ヒストグラム、散布図など） データの図表表現（チャート化）				
第14回	<データの分析> ・ 身の回りのデータを分析する 【データを扱う】 データの集計（和、平均）/データの並び替え、ランキング データ解析ツール(分析ツール--基本統計量・相関など) 表形式のデータ（csv）				
第15回	<データの分析のまとめ> ・ データ活用・分析到達度テスト（レポート） ・ 授業のまとめと振り返り				
授業運営におけるICT活用	LMSを利用して授業資料を配布、課題の解答などを回収します。				
事前・事後学習の内容	授業の予習、復習には十分な時間（4時間程度）を確保して下さい。 特にテキストを見ることなく表計算ソフトを操作できるように十分復習してください。 授業内で復習のための小テストや課題提出を行います。	予習時間	2時間	復習時間	2時間
フィードバックの方法	講評を希望する学生にはメール、LMSのいずれかで対応します。				
評価方法	評価割合		評価基準など		
授業内小テストまたは授業課題	30%				
操作技能到達度テスト	40%				
データ活用・分析到達度テスト（レポート）	30%				
書名	著者	出版社	ISBN	備考	

よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Excel 365&2019 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-429-5	定価：本体2,100円＋税
はじめてのデータサイエンス	滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学ICTリテラシー教育チーム 共編	学術図書出版社	978-4-7806-1102-1	定価：本体1,900円＋税
参考資料・URL	マイクロソフトオフィススペシャリストとは https://mos.odyssey-com.co.jp/about/ マイクロソフトオフィススペシャリスト「Excel 365&2019（一般レベル）」 https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/excel365and2019.html			
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)				
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	数式を利用し、身近なデータの基本統計量を求められるようにする。			
特記事項	<欠席した場合> 正当な理由があつて欠席した場合は必ず公欠届を提出しましょう。 本授業は、講義と演習を組み合わせた授業となります。 欠席した場合には、次の授業までに当日の授業内容について自身で補習し理解を深めておいてください。 <自宅での学習環境について> また、新型コロナウイルスの感染拡大などの状況により授業がオンラインになることがあります。 自宅でオンライン授業を受けられる環境とMicrosoft Excelを操作できる環境を整えておきましょう。			

学期	2024年度前期	ナンバリングコード	HN-IN102	
科目名称	情報処理演習I		開講言語	日本語
担当教員	清水 智、*荻野 早紀			
開講学科	管理栄養学科			
科目群	健康栄養学	履修相当年次	1年	
曜日時限	金曜2限	単位数	1単位	
到達目標	1) コンピューターによる情報処理の概念が理解できる（管理栄養学科DP①把握する力に関連）。 2) コンピューターとネットワークの基本的な特性と利用法について理解できる（管理栄養学科DP①把握する力に関連）。 3) 主要なアプリケーションソフトの操作技能と利用法について理解できる（管理栄養学科DP①把握する力に関連）。 4) コンピューターおよびネットワークを活用して、管理栄養士が必要とする情報の収集・分析・選別・構成・発信などの方法について修得する（管理栄養学科DP②考え抜く力と関連）。			
関連DP	DP1-②(考え抜く力)			
授業概要	授業形態：対面型を基本とします。状況によってはオンライン型（Zoom, UNIVERSAL PASSPORTなど）に切り替えることもあります。 本授業は実習機器運用管理などのために着席位置の指定を行います。 この科目の細目は管理栄養学科（総合基礎教育科目）演習です。単位区分は必修です。他学科履修はできません。 ICTが日常用語になりつつある今日、私たちは、家庭、社会、ビジネスなど様々な場面でたくさんの情報を収集し活用する必要性が高まっています。 それに伴い、私たちは自らコンピューターを利用し処理できる技能・能力が必要とされています。 本講義では、管理栄養士に必要な情報処理の手段としてのコンピューターやネットワークの活用能力をコンピューター実習を通じて身に付けることを目標としています。 具体的には、情報化社会と情報処理の意義、コンピューターとネットワークの基礎知識、コンピューターとネットワークの基本操作、主要なアプリケーションソフトの利用法、および栄養や保健に関する情報処理（情報の収集・分析・選別・構成・発信など）の方法についてコンピューター実習を中心とする演習を主体的に行いながら理解を深めます。 また授業においては、必要に応じてLMS（UNIVERSAL PASSPORT）を用いて課題の提示や提出など事前・事後学修を行います。			
利用するアクティブ・ラーニング手法	実習・フィールドワーク			

授業計画	
回数	内容
第1回	ガイダンス 本授業の概要と方針、進め方や受講における心構えなどについて説明をします。 情報化社会と情報処理について 授業時に出題された課題を指定された期限までに処理するとともに、 授業で採り上げた要点や用語について探究するなど復習を行ない、 同時に授業で紹介する次回授業の要点について資料やwebの情報を調べるなど予習を行なってください。 次回以降も同様です。
第2回	情報処理のための情報学習環境の利用実習
第3回	windowsの基本操作と日本語入力実習
第4回	ワードプロセッシング実習(1)ビジネス文書の構成と基本的な編集機能を学ぶ
第5回	ワードプロセッシング実習(2)いろいろな文書の例と発展的な編集機能を学ぶ
第6回	ワードプロセッシング実習(3)図形や画像素材などを導入した各種文書の作成
第7回	インターネットの仕組みと電子メールに関する実習
第8回	WWWからの情報収集とホームページの基礎に関する実習
第9回	表計算実習(1)計算式を使った基本的な表計算の方法
第10回	表計算実習(2)関数を用いた基本的な表計算の方法
第11回	表計算実習(3)表の編集機能と相対・絶対参照を導入した処理
第12回	表計算実習(4)実用的な各種関数の使い方

第13回	プレゼンテーションソフトの活用実習(1)プレゼンテーションソフトの基本と基礎的なスライドの制作				
第14回	プレゼンテーションソフトの活用実習(2)プレゼンテーションソフトにおける様々な素材を導入したスライド制作				
第15回	Officeアプリケーションの連携処理に関する実習				
授業運営におけるICT活用	実習室の資料提示用センターモニターと学内ネットワーク上の共有フォルダを通じた課題回収用の課題提出フォルダを利用して、受講者の課題解答のチェックと解答内容に対するコメントのフィードバックを行っている。				
事前・事後学習の内容	授業計画の各回で演習した内容についてテキストを通読するとともに、授業時配布資料がある場合には、資料に目を通し、整理しておいてください。さらに授業時に出題した課題のコンピューター処理を行い、理解を深めてください。予復習が大切ですので、1回の授業あたり4時間程度の予復習をおこなってから授業に臨んでください。	予習時間	2時間	復習時間	2時間
フィードバックの方法	提出された授業時課題や期末総合課題の模範解答あるいは改善点などについて、必要に応じコメントを提供します。希望する学生にはメール、LMS、あるいは直接、研究室で対応します。				
評価方法		評価割合		評価基準など	
授業課題		50%			
期末総合課題		50%			
書名	著者	出版社	ISBN		備考
30時間アカデミックOffice2019	杉本 くみ子, 大澤 栄子	実教出版	978-4407348330		定価：本体1,300円＋税
参考資料・URL	必要に応じてプリントや関連するファイルを配布します。 参考書は授業の進展に合わせて適宜紹介します。				
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)					
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	授業の進み方や説明の速さに注意して授業を行います。 また、演習を行う皆さんの理解がより一層深まるよう、一人ひとりの状況を確認しながら、適切な助言（アドバイス）や質疑応答の機会を設けるなどの配慮をして授業を進めていきます。				
特記事項	授業時間以外にもコンピューター実習室が開放されているときに、積極的、主体的にコンピューターを利用し、理解を深めるようにしてください。 また授業時に出題された課題は自己解決（解答）できるよう努力をしてください。 どうしても分からないときには質問をしてください。				

学期	2024年度後期	ナンバリングコード	HN-IN152	
科目名称	情報処理演習II		開講言語	日本語
担当教員	大柴 由紀			
開講学科	管理栄養学科			
科目群	健康栄養学	履修相当年次	1年	
曜日時限	火曜4限	単位数	1単位	
到達目標	1.管理栄養士業務に必要な情報を理解する。 2.栄養価計算ソフトの操作方法を修得する。 3.コンピューターを用いたアンケート集計方法を修得し、データの整理、提示ができる。 4.健康・栄養に関するデータの基礎的な統計学的処理を理解する。			
関連DP	DP1-①(把握する力)			
授業概要	【授業概要】 管理栄養士は健康や栄養に関する情報を協働者と共有し、同時に一般の人々にウェブやデジタル・プレゼンテーションを通じて広く伝達する能力が求められている。管理栄養士業務でよく用いられる、ワードやエクセルによる表作成と数式・関数等を用いた表計算、各種調査実施後の集計処理、献立作成ソフトによる栄養価の算出を行う。 【他分野・他の科目とのつながり】 この科目は情報処理演習Iで学んだことが基礎となる。この科目で学ぶことは、調理実習科目（基礎調理実習II）、給食系実習科目（給食運営実習、給食経営管理実習）、ライフステージと栄養管理の実践（栄養教育論、公衆栄養学）および疾病と栄養管理の実践（臨床栄養学）に関連し、さらに統合実習（臨地実習）につながる。			
利用するアクティブ・ラーニング手法	グループワーク／プレゼンテーション／実習・フィールドワーク			

授業計画	
回数	内容
第1回	「本授業の成績評価基準を、左記【配布資料】に掲載しているため必ず確認すること」 講義・実習： ガイドンス アカデミックライティングについて
第2回	講義・実習： 管理栄養士としての献立表記の基本 レシピ表記の基本
第3回	講義・実習： 栄養計算ソフトの基本 スマート栄養計算の使い方 献立の栄養価計算...課題レポート①
第4回	講義・実習： 栄養計算ソフトの活用 昼食1食分の献立作成
第5回	講義・実習： エクセルの活用① 栄養管理業務に必要な帳票の作成 （作業指示書）...課題レポート②
第6回	講義・実習： エクセルの活用② 栄養管理業務に必要な帳票の作成 （作業工程表）...課題レポート③
第7回	講義・実習： エクセルの活用③ 栄養管理業務に必要な帳票の作成 （食材日計表）...課題レポート④

第8回	講義・実習： ワードやパワーポイントの活用① 栄養表示について（情報提示の方法）				
第9回	講義・実習： ワードやパワーポイントの活用② 献立紹介リーフレットの作成...課題レポート⑤				
第10回	講義・実習： データ分析① データの種類と基礎知識 （身体状況、健康調査等の基本集計）				
第11回	講義・実習： データ分析② 基本統計量、処理関数、分析ツール				
第12回	講義・実習： データ分析③ グラフの作成				
第13回	講義・実習： アンケート集計の手法① アンケート集計とデータ化				
第14回	講義・実習： アンケート集計の手法② グラフの作成と考察				
第15回	実習： 授業内小テスト（確認テスト）				
授業運営におけるICT活用					
事前・事後学習の内容	情報処理演習Iで学んだエクセルの統計関数やグラフ作成について復習しておいてください。 配布資料の理解とノートの整理を中心に予復習（2時間以上）を励行して下さい。 授業時に指定した課題を期日内に完結させるため、自主的な表計算作業が必要です。 授業の詳細や資料の提示は、授業中またはTeamsを通じて示します。 わからないこと、もう一度説明してほしいことはその都度教員に確認してください。	予習時間	1時間	復習時間	1時間
フィードバックの方法	授業内で実習作業の進捗を見ながら、必要に応じて評価指導を行います。				
評価方法		評価割合		評価基準など	
課題レポート		50%			
授業内確認テスト		50%			
参考資料・URL	【参考書】 情報処理演習Iで使用したテキスト				
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	この授業を担当する教員は、管理栄養士として20年以上の経験を有しています。				
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	実技を取り入れた具体的で詳しい説明が好評のため、継続します。 学生の理解度に合わせて、授業の進捗や方法を調整し、柔軟に対応します。 栄養価計算の基礎技術および調査集計の基礎技術を習得するために、それぞれの演習について解説を充実させていきます。				
特記事項	【上記以外で伝えたいこと・授業のルールなど】 専門職として習得すべき技術の基礎を網羅しています。欠席した授業の演習は自習し、課題を提出してください。 なお、授業内容については、学生の理解度や状況等にあわせ、若干変更する可能性があります。				

開講学科	国際リベラルアーツ学科		
学期	2024年度前期	開講年度	毎年
ナンバリング	FNDN/DATA090		
科目名称	Introduction to Data Science		
履修前提要件	None		
担当教員	PARIDA Abhishek、JHINGAN Sanjay	配当年次	1年
科目区分	基幹教育	単位数	1単位
授業形態	演習	開講言語	英語

(注記 1) クラスの規模や施設の収容人数によっては、コースの登録を希望するすべての学生に対応できない場合があります

授業概要	In today's world, data science is fundamental to scientific inquiry, complementing theoretical frameworks and empirical experiments. Across various institutions and organizations worldwide, evidence-based decision-making is pivotal. This course aims to enhance students' comprehension of data's role and equip them with skills in data acquisition, mining, analysis, and visualization technologies.
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	N/A
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	N/A
到達目標	This introductory data science course is tailored for undergraduates with diverse academic backgrounds. It has no prerequisites, and prior knowledge of statistics or computer programming is unnecessary. The goal is to introduce students to the world of Data Science and Artificial Intelligence by exploring key ideas and concepts. The course does not involve advanced mathematics; instead, it emphasizes understanding what can be gleaned from data rather than performing complex analyses.

関連DP	DP1／DP2／DP3／DP4
------	-----------------

iCLA ディプロマ・ポリシー

- (DP1) 口頭及び文書による高いコミュニケーション能力を修得し、有益な知識を効果的に伝達することができる
- (DP2) 批判的思考力・創造力・問題解決能力・グローバルな意識を身につけ、多様に変化する社会に適応し、貢献する意欲をもっている
- (DP3) グループ活動において、効果的に協働・連携することができる
- (DP4) 個人的及び社会的な責任感を持ち、倫理的・道徳的な価値判断に基づいた社会貢献ができる

アクティブ・ラーニングの方法	PBL(課題解決型学習)／反転授業／ディスカッション・ディベート／グループワーク／プレゼンテーション				
アクティブ・ラーニングの詳細・追加情報	N/A				
授業運営におけるICT活用	N/A				
事前・事後学習の内容	Students are advised to take handwritten notes; this will drastically increase their ability to retain the information. Further, they are expected to practice regularly. One to two hours of study is required before the class preparation, and an equal amount of practice is needed after each lecture.	1週間当たりの予習時間	1時間	1週間当たりの復習時間	1時間
フィードバックの方法	The best way to correspond during the course is the UNIPA system or direct emails. Please check the UNIPA account regularly for updates related to classes. To have a better grade, be regular in the study, active and attentive in the class, do a revision of classwork regularly, and participate in-class quizzes.				

評価基準		
評価方法	評価割合	評価内容
Understanding of Concepts	25%	Class Quizzes

Participation in Group Activities	25%	In-class Participation
Presentation	50%	Final Presentation (lecture 15))

テキスト・参考書	Data Science: John Kelleher and Brendan Tierney The art of statistics – Learning from data: David Spiegelhalter
参考資料・URL	N/A
特記事項 - 剽窃	Plagiarism is the dishonest presentation of others' work as if it were one's own. Duplicate submission is also treated as plagiarism. Depending on the nature of plagiarism, one may fail the assignment or the course. The repeated act of plagiarism will be reported to the University, which may apply additional penalties.
特記事項 - その他	N/A

(注記 2) 授業計画は変更になる場合があります

授業計画	
回数	内容
第1回	Module 1: Data and AI in Contemporary Society Lecture 1 - Overview of Data Science: Definition and Applications; Examples of some real-world applications
第2回	Module 2: Nature of Data & Statistics Lecture 2 - Statistical thinking – story telling by data, case studies
第3回	Lecture 3 - What are data , and what is a data set - Variable types, plots
第4回	Lecture 4 - Summarizing and communicating numbers - Measure of Central Tendency, variance, and relative levels
第5回	Lecture 5 - What are we looking in data - Sample, population, Bell curve etc.
第6回	Lecture 6 - What causes what - Correlation, Covariance and Regression
第7回	Module 3: Privacy and Ethics in Data Science Lecture 7 - Ethical Considerations and Challenges; Case Studies
第8回	Module 4: Story telling with Data Lecture 8 - Exploratory Data Analysis (EDA) - Definition, Importance, Pre-requisite; Types of Data
第9回	Lecture 9 - Python implementation of Statistical concepts, Types of plots, Data Visualization techniques, and Case Studies
第10回	Lecture 10 - Exploratory Data Analysis - Case Study
第11回	Lecture 11 - Exploratory Data Analysis - Case Study
第12回	Module 5: Machine Learning and its Types Lecture 12 - Types of Learning, types of ML problems; Future of Data Science
第13回	Module 6: Big Data, Data Structures and Algorithms Lecture 13 - Introduction to Big Data; Its characteristics; application
第14回	Module 7: Foundations of Data Structures and Algorithmic Techniques Lecture 14 - Introduction to Data Structure and selected sorting and searching algorithms

03_(山梨学院大学)_変更後のプログラムが 全学部等を開講されていることがわかる資料

- ・ 2024年度教育課程表(全学部)

＜法学部法学科＞

2024年度 教育課程表

【1～4年生共通】

レベル	100番				200番				300番				400番				卒業要件							
区分	科 目	単位	科 目	単位	科 目	単位	科 目	単位	科 目	単位	科 目	単位	科 目	単位	科 目	単位								
学部専攻科目	<政治学>																た だ し 卒 業 要 件 と し て 、 合 計 1 2 4 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と 。 分 野 か ら 合 計 6 2 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と 。							
	政治学概論Ⅰ	②	政治学概論Ⅱ	②	財政学A	②	財政学B	②	国際公共政策A	②	国際公共政策B	②												
	現代中国の政治	②	近代ヨーロッパの社会	②	外交史A	②	外交史B	②	国際文化研究Ⅰ	②	国際文化研究Ⅱ	②												
			公務員の仕事	②	日本政治史A	②	日本政治史B	②	行政学Ⅰ	②	行政学Ⅱ	②												
			アジア共同体論	②	国際政治Ⅰ	②	国際政治Ⅱ	②																
			現代中国の社会・経済	②	国際関係論(概論)Ⅰ	②	国際関係論(概論)Ⅱ	②																
					国際地域研究Ⅰ	②	国際地域研究Ⅱ	②																
					警察の研究	②	比較政治	②																
					警察政策論	②																		
		政治学概論Ⅰ(中国語)	②	政治学概論Ⅱ(中国語)	②	国際関係論(概論)Ⅰ(中国語)	②	国際関係論(概論)Ⅱ(中国語)	②	多国間交渉論Ⅰ(中国語)	②	多国間交渉論Ⅱ(中国語)	②											
	日本政治社会論Ⅰ(中国語)	②	日本政治社会論Ⅱ(中国語)	②	外交論入門Ⅰ(中国語)	②	外交論入門Ⅱ(中国語)	②			比較政治(中国語)	②												
学部専攻科目	<法学>																							
	法学概論	②			民法C	②	民法D	②	労働法A	②	労働法B	②												
	憲法A	②	憲法B	②	刑法A	②	刑法B	②	国際法Ⅰ	②	国際法Ⅱ	②												
	民法A	②	民法B	②	企業法A	②	企業法B	②	企業決済と法Ⅰ	②	企業決済と法Ⅱ	②												
	日本の法と文化	②	不動産取引と法Ⅰ(休講)	②	企業法C	②			金融と法Ⅰ	②	金融と法Ⅱ	②												
					民事訴訟法A	②	民事訴訟法B	②	環境法A	②	環境法B	②												
					刑事訴訟法A	②	刑事訴訟法B	②	国際私法A	②	国際私法B	②												
					犯罪政策A	②	犯罪政策B	②	少年法	②	自治体法	②												
					行政法Ⅰ	②	行政法Ⅱ	②	知的財産法	②	国際貿易と法	②												
					中国法A	②	中国法B	②																
				日本法制史A	②	日本法制史B	②																	
				不動産取引と法Ⅱ(休講)	②																			
学部専攻科目	<演習>																							
	◇基礎演習Ⅰ	②	◇基礎演習Ⅱ	②	ゼミナル入門Ⅰ	②	ゼミナル入門Ⅱ	②	ゼミナルⅠ	②	ゼミナルⅡ	②	ゼミナルⅢ	②	ゼミナルⅣ	②								
	◇アカデミックスキルⅠ	②	◇アカデミックスキルⅡ	②																				
	◇アカデミックスキルⅠ(中国語)	②	◇アカデミックスキルⅡ(中国語)	②																				
	<経営学>																							
	経営学概論	②	ビジネスゲーム	②	経営戦略論	②	国際経営(休講)	②	人的資源管理	②	ツーリズムマネジメント	②												
	現代社会とビジネス	②			経営管理論	②	技術経営	②	イノベーション・マネジメント	②	ソーシャルビジネス(休講)	②												
					経営組織論	②	ファイナンス	②	経営倫理	②	ものづくり経営	②												
					アントレプレナーシップ	②	ビジネスエコノミクス	②	オペレーション管理	②	農業経営	②												
					eビジネス論(休講)	②	リーダーシップ	②	情報セキュリティ	②														
				投資と資産形成	②	スポーツとビジネス	②																	
経営学概論(中国語)	②			経営戦略論(中国語)	②	ファイナンス(中国語)	②																	
日本のビジネス(中国語)	②			経営管理論(中国語)	②	ビジネスエコノミクス(中国語)	②																	
				経営組織論(中国語)	②																			
				eビジネス論(中国語)(休講)	②																			
学部専攻科目	<マーケティング>																							
	マーケティング概論	②			流通論	②	消費者行動論	②	リテールマーケティング	②	サービスマーケティング	②												
					プロモーション戦略論	②			ブランドマネジメント	②	国際マーケティング	②												
	マーケティング概論(中国語)	②			流通論(中国語)	②	消費者行動論(中国語)	②	リテールマーケティング(中国語)	②	サービスマーケティング(中国語)	②												
					プロモーション戦略論(中国語)	②			ブランドマネジメント(中国語)	②	国際マーケティング(中国語)	②												
	<会計学>																							
	簿記概論	②	工業簿記	②	財務会計論	②	税理士による租税講座(休講)	②	税務会計論(休講)	②														
	会計学概論	②	商業簿記	②	管理会計論	②																		
	簿記概論(中国語)	②	工業簿記(中国語)	②	財務会計論(中国語)	②																		
	会計学概論(中国語)	②	商業簿記(中国語)	②	管理会計論(中国語)	②																		
<経済学>																								
経済学概論	②			ミクロ経済学	②	金融論	②	公共経済学	②	国際貿易	②													
				マクロ経済学	②			財政政策と金融政策	②	国際金融	②													
経済学概論(中国語)	②			ミクロ経済学(中国語)	②	金融論(中国語)	②			国際貿易(中国語)	②													
				マクロ経済学(中国語)	②			財政政策と金融政策(中国語)	②	国際金融(中国語)	②													
<人文・社会・自然科学>																								
哲学Ⅰ	②	哲学Ⅱ	②																					
歴史学Ⅰ	②	歴史学Ⅱ	②																					
論理学Ⅰ	②	論理学Ⅱ	②																					
倫理学Ⅰ	②	倫理学Ⅱ	②																					
文化人類学Ⅰ	②	文化人類学Ⅱ	②																					
ジェンダー学Ⅰ	②	ジェンダー学Ⅱ	②																					
心理学Ⅰ	②	心理学Ⅱ	②																					
宗教と人間Ⅰ	②	宗教と人間Ⅱ	②																					
社会学Ⅰ	②	社会学Ⅱ	②																					
地理学Ⅰ	②	地理学Ⅱ	②																					
日本史Ⅰ	②	日本史Ⅱ	②																					
地誌学	②	世界史	②																					
日本国憲法	②	統計学	②																					
生物学Ⅰ	②	生物学Ⅱ	②																					
宇宙科学	②	エネルギー科学	②																					
数学Ⅰ	②	数学Ⅱ	②																					
地球科学Ⅰ(休講)	②	地球科学Ⅱ(休講)	②																					
科学史(休講)	②																							
学部専攻科目	日本の文学Ⅰ(中国語)	②	日本の文学Ⅱ(中国語)	②	中国の歴史・文化(中国語)	②																		
	<ICTスキル>																							
	◇ICTリテラシーA	②	◇ICTリテラシーB	②	情報社会の権利と倫理	②	ICTと情報社会	②	ICTの社会活用の実践A	②	ICTの社会活用の実践B	②												
	◇データサイエンス	②			資格情報技術	②	ソフトウェア開発論	②																
	コンピューター基礎理論	②			デジタルデザイン	②	データ分析	②																
	◇ICTリテラシーA(中国語)	②	◇ICTリテラシーB(中国語)	②																				
	◇データサイエンス(中国語)	②																						
	<言語スキル>																							
	◇言語技術Ⅰ	②	◇言語技術Ⅱ	②																				
	アクティブリーディング	②	アクティブライティング	②																				
<ヒューマンスキル>																								
学びと社会のデザインⅠ	②			学びと社会のデザインⅡ	②																			
ウェルビーイングⅠ	②	ウェルビーイングⅡ	②	ピア・サポート実践A	②	ピア・サポート実践B	②																	
<国際共修>																								
国際共修入門	②			日本文化交流A	②	日本文化交流B	②																	
異文化コミュニケーションA	②	異文化コミュニケーションB	②	アニメと社会A	②	アニメと社会B	②																	
国際コミュニケーションⅠ	②			国際コミュニケーションⅡ	②																			
留学プランニング	②			国際文化交流A	②	国際文化交流B	②																	
				中国文化交流A	②	中国文化交流B	②																	
				海外文化研修A	④	海外文化研修B	④																	
<英語>																								
実用英語(日常生活)A	①	実用英語(日常生活)B	①	資格英語(TOEIC)ⅠA	①	資格英語(TOEIC)ⅠB	①	資格英語(TOEIC)ⅡA(休講)	①	資格英語(TOEIC)ⅡB(休講)	①													
実用英語(旅行・留学)A	①	実用英語(旅行・留学)B	①																					
総合英語Ⅰ	②	総合英語Ⅱ	②																					
◇日本語Ⅰ	②	◇日本語Ⅱ	②																					
◇日本語特講Ⅰ	②	◇日本語特講Ⅱ	②	※外国人留学生として入学した学生のみ、「日本語」「日本語特講」履修指定科目																				
実用日本語ⅠA	②	実用日本語ⅠB	②	実用日本語ⅡA	②	実用日本語ⅡB	②																	
				アカデミック日本語ⅠA	②	アカデミック日本語ⅠB	②	アカデミック日本語ⅡA(休講)	②	アカデミック日本語ⅡB(休講)	②													
				キャリア日本語ⅠA	②	キャリア日本語ⅠB(休講)	②	キャリア日本語ⅡA(休講)	②	キャリア日本語ⅡB(休講)	②													
基礎中国語Ⅰ	②	基礎中国語Ⅱ	②	初級中国語Ⅰ	②	初級中国語Ⅱ	②	中級中国語Ⅰ	②	中級中国語Ⅱ	②													
学部専攻科目	<スポーツ>																							
	スポーツ実践(バスケットボール)	①	スポーツ実践(軽スポーツⅠ)	①																				
	スポーツ実践(バレーボール)	①	スポーツ実践(軽スポーツⅡ)	①																				
	スポーツ実践(バドミントン)	①	スポーツ実践(トレーニング実践)	①																				
	スポーツ実践(柔道)	①	スポーツ実践(卓球)	①																				
	競技スポーツ実践A	①	競技スポーツ実践B	①	競技スポーツ実践C	①	競技スポーツ実践D	①	競技スポーツ実践E	①	競技スポーツ実践F	①												
	スポーツ経営学	②	トレーニング論	②	スポーツと法	②	スポーツ指導論	②																
	スポーツ心理学	②			スポーツ科学	②	コーチング基礎	②																
					スポーツ社会学	②																		
	<キャリア形成支援>																							
ワークル論：働くための基礎知識	②	キャリアデザイン入門	②	キャリアデザイン基礎	②	キャリアデザイン発展	②	実践キャリア論(休講)	②															
フイナシヤル・リテラシー(休講)	②			ビジネス・コミュニケーションⅠ	②	インターンシップ	④	ビジネス・コミュニケーションⅡ	②															
産業と職業の研究	②	セルフブランディング	②	女性とキャリア形成	②	アスリートのキャリア形成	②	インターンシップ(公務)	④															
グローバル人材の形成	②	クオリティ・オブ・ライフの探究	②																					
キャリア開発入門(中国語)	②			キャリア開発演習(中国語)	②																			
<以下は、教職課程(自由科目)に関する科目です。卒業要件単位数には入りません。教職課程の履修については、教職課程履修規程に従うこと。 ※ただし、2021年度以前入学生については、<教職専門科目> 16単位を卒業要件単位数に含む。																								
<教科の指導法に関する科目(社会・公民)>																								
<教職専門科目>																								

【1年生】

【注意事項】

- ①レベルは、履修相当年次の目安にしてください。100番台＝1年次、200番台＝2年次、300番台＝3年次、400番台＝4年次相当です。詳細は、履修ガイドブックを確認してください。
- ②＊印の科目は必修科目です。
- ③科目名に○がついている科目は、2024年度入学生全員を対象とした履修指定科目です。指定された曜日時間限のクラスで必ず履修をしてください。
- ④グレーの網掛けは2024年度休講科目です。科目名の後ろに「休講」が記入されています。
- ⑤上記は字の領域之色分けしています。

学部分野別科目群	特定の学部分野について実修し、まず	2レベル系科目群	社会生活に役立つ2レベル系科目を履修します。	キャリア形成支援	将来のキャリア形成について考えます。
----------	-------------------	----------	------------------------	----------	--------------------

<健康栄養学部管理栄養学科>

2024年度 教育課程表（2024年度入学者対象）

【1年生】

①レベルは、履修相当年度の目安にしてください。100番台＝1年次、200番台＝2年次、300番台＝3年次、400番台＝4年次相当です。詳細は、履修ガイドブックを確認してください。
 ②＊印の科目は必修科目です。
 ③科目名に「◇」がついている科目は、2024年度入学生全員を対象とした履修指定科目です。指定された曜日時限のクラスで必ず履修をしてください。
 ④グレーの網掛けは2024年度休講科目です。科目名のうしろに“休講”が記入されています。
 ⑤上記は学びの領域ごとに色分けしています。

学問分野別科目群	特定の学問分野について学修します。	スキル系科目群	社会生活に役立つスキルを身につけます。	キャリア形成支援	将来のキャリア形成について考えます。
----------	-------------------	---------	---------------------	----------	--------------------

国際リベラルアーツ学部 2024年度 教育課程表
iCLA 2024AY Curriculum

科目区分 Cluster/Discipline	コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講年度 Year	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style		
			コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits				必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS
アカデミック英語 English for Academic Excellence	EFAE010	English for Academic Excellence (EFAE) : A アカデミック英語 : A	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		15		○		
	EFAE020	English for Academic Excellence (EFAE) : B アカデミック英語 : B	EFAE010 or equivalent	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall	15			○		
	—	小計 (2科目) Subtotal: 2										
基幹教育 Foundation Courses	FNDN030	Liberal Arts Preparation (Japanese) リベラルアーツ入門	native OR N2 proficiency, AND placement test	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	FNDN050	Composition Lab 英作文ラボ	EFAE020 or equivalent, AND placement test	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○	
	FNDN/DATA090	Introduction to Data Science データ・サイエンス入門	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○	
	FNDN100	Academic Reading Across Disciplines 分野横断型アカデミック・リーディング	EFAE020	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	FNDN101	Composition 1 英作文 1	EFAE020 or equivalent, AND placement test	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	FNDN102	Composition 2 英作文 2	FNDN101	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	FNDN103	Expository Research Writing リサーチ・ライティング	EFAE020 or equivalent, AND placement test	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	FNDN116	Foundation for College Success カレッジ・サクセスの基礎	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall	1					○
	FNDN145	Modern World History 近代世界史	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	FNDN285	Internship インターンシップ	none	2	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1				○
	FNDN499	Graduation Research Project 卒業研究	(see iCLA Student Handbook)	4	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall	2				○	
	—	小計 (11科目) Subtotal: 11										
グローバルビジネス ・ 経済学 Global Business & Economics	ECON101	Microeconomics ミクロ経済学	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	ECON102	Macroeconomics マクロ経済学	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON120	Accounting アカウンティング	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON140	Financial Management ファイナンス論	ECON120	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON201	Intermediate Microeconomics 中級ミクロ経済学	ECON101	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON202	Intermediate Macroeconomics 中級マクロ経済学	ECON102	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON/JPNA230	Japanese Economy & Business 日本経済とビジネス	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON/DATA246	Investment 証券投資論	ECON140	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON260	Marketing マーケティング	none	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON270	Money, Banking, and Financial Markets 金融市場	ECON140	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON/DATA291	Econometrics 計量経済学	QREA/PSCI/ECON203	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON315	Derivatives デリバティブ	ECON140	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON320	International Trade & Economics of Globalization 国際貿易とグローバル経済	ECON101 OR ECON102	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON325	International Finance 国際金融論	ECON101 AND ECON102	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON/DATA331	Risk Management リスクマネジメント概論	ECON140	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON350	Entrepreneurship 起業・ベンチャー論	none	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON/DATA364	Portfolio Management ポートフォリオ理論	ECON140	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON/DATA370	Introduction to Fintech: Reshaping the Financial World フィンテック概論 : 金融界の再構築	none	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ECON385	Economics of Sustainable Development サステイナビリティ学基礎	none	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ECON498	Seminar (Global Business & Economics) グローバルビジネス・経済学演習	Completed at least 7 lecture courses that satisfy the Major Area requirement.	4	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○	
	—	小計 (20科目) Subtotal: 20										
政治学 Political Science	PSCI100	Introduction to Political Science 政治学入門	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	PSCI/SOCI/ECON210	Methods of Social Research 社会調査方法論	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSCI220	Comparative Politics 比較政治学	PSCI100	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSCI230	International Relations 国際関係論	PSCI100	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSCI/ECON235	Contemporary Issues of Political Economy 政治経済学の現状と課題	PSCI100 AND ECON101	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSCI240	Introduction to Public Administration 行政学入門	PSCI100	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSCI/SOCI255	Public Policy and Service 公共政策と公共サービス	PSCI240	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSCI/ECON265	Geographical Political Economy 地域政治経済学	ECON101, OR PSCI220	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSCI/ECON275	International Political Economy 国際政治経済学	ECON101 OR ECON 102, AND PSCI230	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSCI311	International Relations in the Asian Pacific Region アジア太平洋地域における国際関係論	PSCI230	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSCI320	International Security 国際安全保障論	PSCI230	2	偶数年 Even	前期 Spring		3		○		
	PSCI330	International Organization 国際機構論	PSCI230	2	奇数年 Odd	前期 Spring		3		○		
	PSCI/JPNA355	Japanese Politics and Diplomacy 日本の政治と外交	PSCI230 OR PSCI220	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSCI/ECON/DATA366	Political Economy of Development 開発の政治経済学	ECON101 OR ECON102, AND PSCI220	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSCI/SOCI370	Nonprofit/Social Enterprise Management 非営利組織と社会的企業	PSCI240	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSCI/ECON/DATA376	Political Economy of Trade and Industrial Policy 貿易・産業政策の政治経済学	PSCI265 OR PSCI275	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSCI499	Seminar (Political Science) 政治学演習	Completed at least 7 lecture courses that satisfy the Major Area requirement.	4	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○	
	—	小計 (17科目) Subtotal: 17										

科目区分 Cluster/Discipline	コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講年度 Year	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style		
			コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits				必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS
心理学 Psychology	PSYC100	Introduction to Psychology 心理学入門	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSYC150	Introduction to Psychobiology 心理生物学入門	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSYC/DATA190	Research Design 研究デザイン	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSYC201	Social Psychology 社会心理学	PSYC100 OR PSYC150	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSYC210	Cognitive Psychology 認知心理学	PSYC100 OR PSYC150	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSYC240	Developmental Psychology 発達心理学	PSYC150	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSYC250	Psychopathology 精神病理学	PSYC150	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSYC260	Health Psychology 健康心理学	PSYC100 OR PSYC150	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSYC301	Experimental Psychology 実験心理学	PSYC/DATA190	3	毎年 Every Year	前期 Spring		1			○	
	PSYC/DATA311	Cyberpsychology サイバー心理学	PSYC200 or 201 OR PSYC210	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSYC330	Individual Differences 差異心理学	PSYC/DATA190	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSYC/ECON/DATA348	Consumer Psychology 消費者心理学	①PSYC200 or 201, OR ②PSYC100 AND ECON260	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	PSYC/ECON/DATA352	Economic Psychology 経済心理学	PSYC200 or 201	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	PSYC499	Seminar (Psychology) 心理学演習	Completed at least 7 lecture courses that satisfy the Major Area requirement.	4	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○	
	—	小計 (14科目) Subtotal: 14										
インターディシプリナリー・データ・サイエンス Interdisciplinary Data Science	DATA100	Introduction to Computer Science コンピュータ科学入門	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	DATA150	Introduction to Python Programming パイソン・プログラミング入門	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	DATA160	Coding Bootcamp: Python ブートキャンプ：パイソン	DATA150 (can be taken concurrently)	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○	
	DATA240	Data Visualization Techniques in Python パイソン・データビジュアライゼーション技術	DATA150 AND QREA/PSCI/ECON203	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	DATA250	Mathematics for Data Science データサイエンスのための数学	DATA150 AND QREA102 AND QREA/PSCI/ECON203	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	DATA/SOCI/QREA265	Science, Society & Self 科学と社会と自己	none	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	DATA/SOCI/QREA340	The Art & Science of Decision Making in an Era of Accelerating Change: Transformation/Big Data/AI 変化を加速させる時代における意思決定の技術と科学：変容・ビックデータ・AI	none	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	DATA350	Machine Learning 機械学習	DATA160 AND DATA240 AND DATA250	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	DATA499	Seminar (Interdisciplinary Data Science) インターディシプリナリー・データ・サイエンス演習	Completed at least 7 lecture courses that satisfy the Major Area requirement.	4	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○	
	—	小計 (9科目) Subtotal: 9										
文学・言語学 Language Arts	LANG100	Introduction to Language Concepts 言語概念入門	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	LANG110	English for Specific Purposes 専門英語	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	LANG150	Literature Appreciation 文学鑑賞	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	LANG200	Sociolinguistics 社会言語学	LANG100	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	LANG210	Semantics 意味論	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	LANG220	Rhetorical Analysis and Composition 修辞学と作文	FNDN102 OR FNDN103	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	LANG/JPNA235	Japan: Lost in Adaptation and Representation ジャパン：世界から見れば日本	LANG150 OR LANG220	2	偶数年 Even	後期 Fall		3		○		
	LANG/JPNA240	Contemporary Japanese Literature 現代日本文学	LANG150 OR LANG220	2	奇数年 Odd	後期 Fall		3		○		
	LANG/JPNA245	Early Modern Japanese Literature 近世の日本文学	none	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	LANG300	World Englishes 世界の英語	LANG100	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	LANG/JPNA305	East Asian Tales of the Supernatural 東アジアにおける怪異譚	LANG/JPNA245 OR HIST/JPNA260	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	LANG331	Creative Nonfiction クリエイティブ・ノンフィクション	LANG 220 OR LANG/JPNA 240 OR LANG/JPNA 235	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	LANG346	Contemporary Literature, Politics, and Economy 現代文学における政治と経済	LANG 220 OR LANG/JPNA 240 OR LANG/JPNA 235	3	奇数年 Odd	前期 Spring		3		○		
	LANG360	Second Language Acquisition 第二言語習得論	none	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	LANG370	Contemporary Science Fiction 現代サイエンス・フィクション	LANG 220 OR LANG/JPNA 240 OR LANG/JPNA 235	3	偶数年 Even	前期 Spring		3		○		
	LANG/JPNA450	Comparative Literature Studies 比較文学研究	LANG/JPNA 310 OR LANG 331 OR LANG 345 OR LANG 346 OR LANG370	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	LANG/SOCI215	Workshop: Archeolinguistics ワークショップ：考古言語学	none	2	毎年 Every Year	後期 Fall		1				○
	—	小計 (17科目) Subtotal: 17										
Inter-disciplinary Arts	ARTS100	Art Appreciation 美術鑑賞	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○		
	ARTS/JPNA111	Calligraphy and Kanji Culture 書道と漢字文化	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○		
	ARTS210	History of Art 美術史	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ARTS/JPNA220	Japanese Art and Aesthetics 日本美術と美学	none	2	奇数年 Odd	前期 Spring		3		○		
	ARTS301	Art Studio アート・スタジオ	ARTS100 AND ARTS186, AND ARTS286 or 288	3	奇数年 Odd	後期 Fall		3		○		
	ARTS310	Graphic Design Studio グラフィックデザイン・スタジオ	ARTS100 AND ARTS187, AND ARTS287 or 289	3	偶数年 Even	後期 Fall		3		○		
	ARTS420	Art Portfolio アート・ポートフォリオ	1) 1 Art Course from the following: ARTS100, ARTS210, ARTS/JPNA220, ARTS/MUSC110 2) AND 1 Art Course from the following: ARTS300 or 301, ARTS310 3) AND 2 Art Workshops from the following: ARTS180/280, ARTS187/287/289 ARTS186/286/288	4	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○		
	ARTS180	Workshop: Drawing 1 ワークショップ：絵画実習 1	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1				○
	—											

科目区分 Cluster/Discipline		コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講年度 Year	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style			
				コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits				必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS	
		ARTS186	Workshop: Painting and Sculpting 1 ワークショップ：絵画と彫刻 1	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1				○	
		ARTS187	Workshop: Graphic Design 1 ワークショップ：グラフィックデザイン1	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		1				○	
		ARTS280	Workshop: Drawing 2 ワークショップ：絵画実習2	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		1				○	
		ARTS288	Workshop: Painting and Sculpting 2 ワークショップ：絵画と彫刻2	none	2	毎年 Every Year	後期 Fall		1				○	
		ARTS289	Workshop: Graphic Design 2 ワークショップ：グラフィックデザイン2	none	2	毎年 Every Year	前期 Spring		1				○	
		—	小計 (13科目) Subtotal: 13											
人文教養 Inter- disciplinary Arts	芸能 Performing Arts	PART120	Introduction to Filmmaking 映画製作入門	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
		PART/JPNA215	The Anthropology of Japanese Cinema 日本映画の人類学	PART120	2	奇数年 Odd	後期 Fall		3		○			
		PART/JPNA252	Manga & Anime Studies マンガ・アニメーション学	none	2	奇数年 Odd	前期 Spring		3		○			
		PART/JPNA253	Samurai Code and Culture 武士道とサムライ文化	none	2	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3		○			
		PART/JPNA320	Film and Animation Studio 映画とアニメーションスタジオ	PART120	3	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
		PART/JPNA351	Japanese Traditional Theater 日本の伝統演劇	SOCI/PART/JPNA110 OR SOCI/JPNA270 OR PART/JPNA150 OR SOCI/JPNA160	2	偶数年 Even	後期 Fall		3		○			
		PART180	Workshop: Acting 1 ワークショップ：演技実習1	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1				○	
		PART185	Workshop: Directing ワークショップ：演劇監督実習	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1				○	
	PART280	Workshop: Acting 2 ワークショップ：演技実習2	none	2	毎年 Every Year	後期 Fall		1				○		
	—	小計 (9科目) Subtotal: 9												
	音楽 Music	ARTS/MUSC110	Interdisciplinary Arts インターディシプリナリー・アート	none	1	偶数年 Even	前期 Spring		3		○			
		MUSC120	Fundamentals of Sound and Music 音と音楽概論	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
		MUSC/JPNA210	Japanese Traditional Music 日本の伝統音楽	none	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
		MUSC240	Music of the 20th Century 20世紀の音楽	none	2	偶数年 Even	後期 Fall		3		○			
		MUSC251	Music Technology 音楽技術	none	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○			
		MUSC/ARTS260	Sound Art サウンド・アート	none	2	奇数年 Odd	後期 Fall		3		○			
		MUSC315	Audio Engineering オーディオ工学	MUSC/ARTS260 OR MUSC251, AND MUSC120	2	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○			
		MUSC320	Performance Strategies パフォーマンス・ストラテジー	MUSC/ARTS260 OR MUSC240, AND MUSC120	3	偶数年 Even	前期 Spring		3		○			
		MUSC330	Music Studio ミュージック・スタジオ	At least 3 music courses OR workshops from the following: ARTS/MUSC110, MUSC120, MUSC/JPNA210, MUSC251, MUSC240, MUSC/ARTS260, MUSC315, MUSC320, MUSC/JPNA187, MUSC/JPNA189, MUSC/PART130, MUSC/SPRT289	3	奇数年 Odd	前期 Spring		3		○			
		MUSC/PART130	Workshop: Guitar ワークショップ：音楽実習 (ギター)	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		1					○
	MUSC/JPNA187	Workshop: Japanese Koto ワークショップ：音楽実習 (箏)	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		1					○	
—	小計 (11科目) Subtotal: 11													
人文教養 Inter. Arts	INTA499	Seminar (Interdisciplinary Arts) 人文教養演習	Completed at least 7 lecture courses that satisfy the Major Area requirement.	4	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○			
—	小計 (1科目) Subtotal: 1													
日本研究 Japan Studies	歴史学 History	HIST/JPNA170	Introduction to Japanese History 日本史入門	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
		HIST/JPNA260	Bodies and Cultures in Modern Japanese History 近代日本史における身体と文化	HIST/JPNA170	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
		HIST/JPNA360	History of Science and Medicine in Japan 日本における科学と医学史	HIST/JPNA260	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○			
		—	小計 (3科目) Subtotal: 3											
	日本語研究 Japanese Language	JPNL001	Konnichiwa Japanese こんにちは日本語	none	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○		
		JPNL111	Japanese Language 1 日本語 1	(Placement test)	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL112	Japanese Language 2 日本語 2	JPNL110 OR JPNL111 or equivalent	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL113	Japanese Language 3 日本語 3	JPNL120 OR JPNL112 or equivalent	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL114	Japanese Language 4 日本語 4	JPNL113 or equivalent	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL115	Japanese Language 5 日本語 5	JPNL130 OR JPNL114 or equivalent	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL116	Japanese Language 6 日本語 6	JPNL210 OR JPNL115 or equivalent	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL117	Japanese Language 7 日本語 7	JPNL220 OR JPNL116 or equivalent	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL250	Professional Writing in Japanese 社会人としての日本語作文	native OR JPNL300 OR JPNL117	1	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		3			○		
		JPNL270	Preparation for the N2 level of the Japanese Language Proficiency Test 日本語能力試験N2	JPNL210 OR JPNL115 or equivalent	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1			○		
		JPNL279	Workshop: Experiencing Teaching Japanese ワークショップ：日本語教育体験／観察	native OR JPNL300 OR JPNL117	2	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○		
		JPNL320	Socio-Cultural Communication in Japanese コミュニケーションのための日本語表現	JPNL220 OR JPNL116 or equivalent	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1			○		
		JPNL370	Preparation for the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test 日本語能力試験N1	JPNL300 or JPNL117 or equivalent	1	毎年 Every Year	後期 Fall		1			○		
		—	小計 (13科目) Subtotal: 13											
	日本研究 Japan Studies	JPNA225	Cultural Exchange in Japanese 文化交流	JPNL210 OR JPNL115 or equivalent	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
	JPNA499	Seminar (Japan Studies) 日本研究演習	Completed at least 7 lecture courses that satisfy the Major Area requirement.	4	毎年 Every Year	前・後期 Spring & Fall		1			○			
	—	小計 (2科目) Subtotal: 2												
数的推理 ・ 自然科学	Quantitative Reasoning	QREA101	Math for Liberal Arts リベラルアーツのための数学	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			
		QREA102	College Algebra 大学代数学	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3		○			
		QREA/PSCI/ECON203	Statistics 統計学	none	2	毎年 Every Year	前期 Spring		3		○			

科目区分 Cluster/Discipline	コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講年度 Year	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style		
			コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits				必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS
& Natural Sciences	SCNS110	Earth Science 地球科学	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall						
	—	小計（4科目） Subtotal: 4										
保健体育 Health & Physical Education	SPRT/JPNA180	Health & Physical Education 1 (Nanba) 保健体育 1（種目：ナンバ式骨体操）	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall						○
	SPRT/JPNA181	Health & Physical Education 1 (Aikido) 保健体育 1（種目：合気道）	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring						○
	SPRT/JPNA182	Health & Physical Education 1 (Judo) 保健体育 1（種目：柔道）	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1				○
	SPRT/JPNA183	Health & Physical Education 1 (Karate) 保健体育 1（種目：空手）	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall						○
	SPRT/JPNA190	Health & Physical Education 1 (Shugendo) 保健体育 1（種目：修験道）	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring						○
	SPRT/JPNA282	Health & Physical Education 2 (Judo) 保健体育 2（種目：柔道）	SPRT182	1	毎年 Every Year	後期 Fall		1				○
	SPRT/JPNA283	Health & Physical Education 2 (Karate) 保健体育 2（種目：空手）	SPRT183	1	毎年 Every Year	前期 Spring						○
	—	小計（2科目） Subtotal: 2										
社会学 Sociology	SOCI/JPNA160	The Anthropology of Japan 日本の人類学	none	1	毎年 Every Year	後期 Fall		3			○	
	SOCI/JPNA270	Japan: Case Studies in Society & Culture 日本：社会と文化の事例研究	SOCI100 OR SOCI/JPNA160	2	偶数年 Even	前期 Spring		3			○	
	SOCI/PART/JPNA330	Folklore and Archeology of Yamanashi 山梨県の民話と考古学	SOCI100 OR SOCI/JPNA160	3	毎年 Every Year	後期 Fall		3			○	
	SOCI/JPNA186	Workshop: Fuji Culture ワークショップ：富士山と文化	none	1	毎年 Every Year	前期 Spring		1				○
	—	小計（4科目） Subtotal: 4										

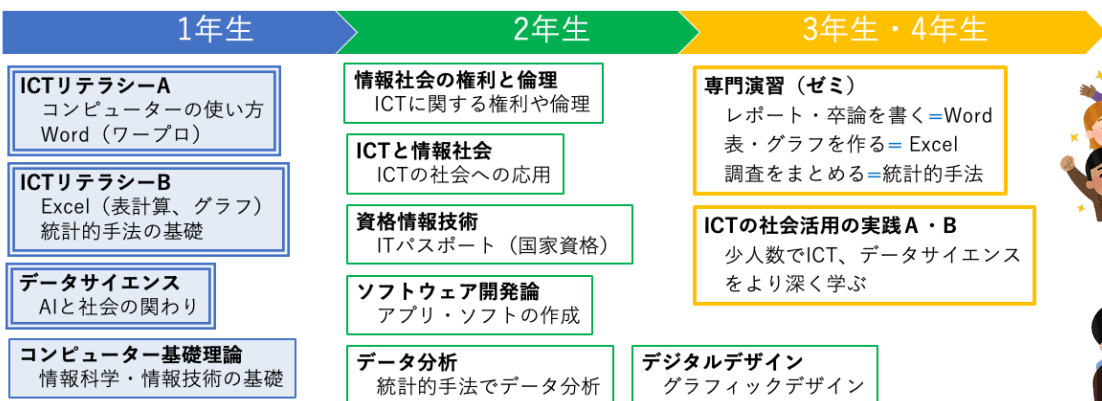
卒業要件及び履修方法 Graduation Requirements												
【卒業要件及び履修方法】 （１）卒業要件単位数：１２４単位（必修を含む） （２）卒業要件単位の修得方法：以下に掲げる履修方法に基づいて単位を修得すること。 (i)『アカデミック英語』より必修科目を含めて15単位以上を修得する。ただし、入学時に正規留学生として入学を認められる者と同等の英語運用能力を有すると認められた学生は、当該要件を免除する。 (ii)日本語を母語とする学生及びこれと同等の日本語運用能力を有すると判断された学生は、『日本語研究』より「社会人のための日本語作文」の３単位を修得する。日本語を母語としない外国人留学生等については、「日本語２」までの達成を卒業要件とする。ただし、入学後に実施する日本語運用能力に関する試験の結果により当該科目を履修する必要があると判断された場合は、「日本語２」までの達成の要件を免除する。なお、前項（i）の『アカデミック英語』より「アカデミック英語：A」及び「アカデミック英語：B」を履修した学生については、『日本語研究』に配置されている日本語教育を目的とした授業科目の単位を、６単位を上限として卒業要件を充足する単位に含めることができる。『アカデミック英語』より「アカデミック英語：B」のみを履修した学生については、『日本語研究』に配置されている日本語教育を目的とした授業科目の単位を、15単位を上限として卒業要件を充足する単位に含めることができる。『アカデミック英語』を免除された学生については、『日本語研究』に配置されている日本語教育を目的とした授業科目の単位を、15単位を上限として卒業要件を充足する単位に含めることができる。 (iii)『基幹教育』より必修科目（卒業研究を含む。）を含めて６単位以上を修得する。 (iv)『グローバルビジネス・経営学』『政治学』『心理学』『インターディシプリナリー・データ・サイエンス』『人文教養』『日本研究』のうち３つの科目区分それぞれからパスウェイコース１科目以上を履修し、９単位以上を修得する。 (v)『数的推理・自然科学』より３単位以上を修得する。 (vi)『保健体育』より１単位以上を修得する。 （３）各学生がメジャーとして選択した科目区分より、必修科目（演習を含む。）を含めて31単位以上を修得する。なお、学生がメジャーとして選択する科目区分は、(iv)に基づいて履修したパスウェイコースの科目区分の中から選択しなければならない。 （４）事前の学修計画を策定した上で、本学部の２学期間に相当する期間、協定大学に留学すること。ただし、海外から本学部で留学している学生及び海外大学から転入した学生は本要件を免除する。また、入学前の学修歴および入学時点の言語運用能力に鑑みて留学を免除することが教育上有益であると認められる場合には、学部教授会の議を経て当該要件を免除することができる。なお、留学先において入国制限等の措置が発動された結果、あるいは協定大学が受け入れを中止した結果、協定大学への留学が困難となった場合、または、学部からの要請により留学を中止した場合においても、本号の定める要件は免除できる。 （５）第４年次において、各学生がメジャーとして選択した科目区分に開設されている「演習」を履修し、担当教員の指導を受け指定された方法に基づいて「卒業研究」を完成させ提出する。 【履修上限】 １年生：３６単位、２年生：４２単位、３年生：４２単位、４年生：４２単位												

04_(山梨学院大学)_取組概要

ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

本教育プログラムを修了すると身につくこと

必修科目を学ぶことで、**ICTスキル**と**データサイエンス**が同時に身につきます。本教育プログラムを終了すると学生生活に必要な文書作成、表計算などのICTスキルが身につきます。ICTスキルは、卒業後も、職場ではもちろんのこと、社会の様々な場面で活用できます。また、データサイエンスを学ぶことで、**ビッグデータ**や**AI**とともに生活する現代社会において、**知らないことによる様々なリスクを回避し、活用することに興味を持つ**ことができます。そして、社会でデータサイエンスを活用するための基礎的な能力が身につきます。



2重枠が本教育プログラムに係る科目。他はプログラム修了者向けの周辺科目。

モデルカリキュラム 「導入」、「基礎」、「心得」の内容を全て含むように本教育プログラムは編成されています。

導入	1. 社会におけるデータ・AI利活用	
	1-1. 社会で起きている変化 1-3. データ・AIの活用領域 1-5. データ・AI利活用の現場	1-2. 社会で活用されているデータ 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-6. データ・AI利活用の最新動向
基礎	2. データリテラシー	
	2-1. データを読む 2-3. データを扱う	2-2. データを説明する
心得	3. データ・AI利活用における留意事項	
	3-1. データ・AIを扱う上での留意事項	3-2. データを守る上での留意事項

プログラムの特徴

1. 大学の教育理念に基づいたプログラム設計

山梨学院大学では2021年度に教育理念を更新しています。本教育プログラムはその教育理念に沿うように教育内容、授業運営が設計されています。



山梨学院大学の教育理念

山梨学院大学は広い**国際的視野**を持ち**実践的な知識と技能**を備え創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成する

国際的視野 (多様性への理解)

山梨学院大学の学生は、一般学生、スポーツアスリート学生、留学生など多様な学生から構成されています。学生が大学で学ぶ目的も多様です。本教育プログラムの**グループ学習**では、こうした学生が協力して学習し、お互いの考えを認め合って、**多様性**への理解を身につけます。

実践的な知識と技能

本教育プログラムでは、本学が社会科学系の学部を中心に構成されていることを考慮して、図表を多用して数式は必要最小限に絞り、授業内容を設計しています。また、各学部の学生の興味に応じた**実践的な知識と技能**を身につける時間を設けています。

2023年度からは、こうした内容を盛り込んで本学教員が滋賀大学データサイエンス学部と**共同執筆した教科書**を採用しています。

2. グループ学習を重視する

活用事例のグループ学習を通して、数理・データサイエンス・AIを**学ぶことの楽しさ**を体験し**将来に渡って学ぶ力**を身につけます。

3. 授業運営方法・成績評価の共通化

「ICTリテラシーA」、「ICTリテラシーB」、「データサイエンス」は複数の教員で担当しています。それぞれの科目で以下の工夫をしています。

- ・ **同一シラバス**、**同一運営方法**で授業を行っています
- ・ 成績評価のための基準が**統一**され厳格化されています。

4. 山梨県内の大学と連携

山梨大学が中心とり活動している山梨県内の大学の「数理・データサイエンス・AI教育連携にかかる**授業設計研究会**」に参加しています。